

2015年度 未来の京都創造研究事業

研究だより 第4号

未来の京都創造研究事業は、「大学のまち京都」の『知』の集積を活用し、未来の京都づくりに向けた政策を創造するため、大学の研究者と京都市の担当部署との協力により調査・研究を行っていただく事業です。

最終号となります第4号では、3月22日（火）に開催しました「成果報告会・交流会」の様子をお伝えします！



自由課題1の成果報告
(土井脩史さん)



和気あいあいとした
交流会の様子

成果報告会

日時 2016年3月22日（火）
17時30分～20時

場所 キャンパスプラザ京都

今年度採択された5つの調査・研究の
成果報告が行われました。

研究テーマと研究代表者

① 指定課題1

「障がい者雇用を実現する持続可能な『食の経営』についての研究」
京都産業大学経営学部
古村 公久 准教授



指定課題1の成果報告
(古村公久先生)

② 指定課題2

「自転車の走行環境整備における知覚心理学の活用についての研究」
立命館大学文学部 北岡 明佳 教授

③ 指定課題3

「地域連携活動への参加が学生の意識に与える影響の分析に基づく効果的な大学・地域連携科目及び事業の開発に向けた研究」
立命館大学政策科学部 桜井 政成 教授

※当日は共同研究者の大谷大学 赤澤清孝 講師、京都文教大学 滋野浩毅 専任研究員が報告されました。

④ 自由課題1

「京町家における居住文化に対応した断熱改修手法に関する研究」
京都大学大学院工学研究科 土井 脩史 研究員

⑤ 自由課題2

「京都市におけるまちの居場所運営の継続要因及び終了要因の抽出」
京都橘大学現代ビジネス学部 小辻 寿規 助教



指定課題2
の成果報告
(北岡明佳
先生)

市の担当部署
のご意見
もいただき
ました。



自由課題2
の成果報告
(小辻寿規
先生)

成果報告会には、研究者、京都市職員、市民、学生、NPO関係者など、約60名のみなさまが参加されました。

2015年度の調査・研究は、障がい者雇用から京町家の断熱改修まで、実に多岐にわたるテーマとなりました。各研究グループのみなさまは実質9か月という短い調査・研究期間にもかかわらず、たいへん精力的に取り組まれ、アンケートやヒアリング調査、参与観察、現地調査などから得られた現場の生の声を丹念に分析するとともに、京都市の担当部署からの情報提供や助言なども取り入れつつ獲得した、学術的かつ実践的な成果を報告されました。

お忙しい年度末の平日の夜にもかかわらずご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。



指定課題3の成果報告
(左から、赤澤清孝先生、滋野浩毅先生)

交流会

調査・研究テーマの枠を超え、説明を尽くせなかったことの意見交換を通して研究をより深める気づきを得たり、異なる分野の方同士の交流によってネットワークを広げたりできる機会とするため、交流会を行いました。



過去の研究だよりも掲示しました。

分野の枠を超えるみなさま同士が、和気あいあいと交流を深められました。



交流会では、当事業の立ち上げから携わっている水田プロジェクト・マネージャーから、これまで5年間の歩みを振り返らせていただき、その後、ざっくばらんな意見交換の場をもたせていただきました。それぞれに分野の異なるみなさまの間で、いろいろなお話が飛び交っていたようです。気が付けばあっという間に時は過ぎ…

非常に短い時間ではございましたが、研究者のみなさまには今後の研究に、参加されたみなさまには今後のお仕事や学問、地域での活動などに何らかの形でプラスになれば幸いです。

今年度の調査・研究に携わった研究者のみなさまからの声



自由課題1 土井脩史さん

京都市と一緒に研究することで、現場の状況や、行政として困っていることを実際に聞くことができたので、たいへん勉強になった。



指定課題2 北岡明佳先生

面白そうと思うことを研究できる機会になった。警察にも研究の中で作ったストックを役立ててもらえるよう、担当部署と協力していきたい。



指定課題3 乾明紀先生(左)、久保友美先生(右)
(共同研究者)

日々の仕事の中で一番のテーマとしていることを研究できた。これからも勉強して京都のために還元していきたい。



自由課題2 平本毅先生(左)、三嘴悟さん(右)
(共同研究者)

研究したいことの全部はできなかったが、まちの居場所がどう発展していくべきか、分析を深めて、市に伝えていきたい。

水田プロジェクト・マネージャーからのひとこと

終わってしまうとなると5年という時の長さは非常に短かったように感じます。

「未来の京都に種をまく」ことを目的としてつくったものの、仕組みづくりは最初から。知名度もゼロからのスタートだったのが2011年4月。大学のまち京都の「知」を京都市の政策の創造に反映させるため、大学コンソーシアム京都に加盟する大学と研究者たち、それぞれの研究テーマに関する京都市の各担当部署の職員さんたちが、おのおのの立場から協力しあって事業を進めてまいりました。5年間で25テーマ、京都らしいものばかりを。

調査・研究を進めるためには京都市内のさまざまな地域の皆さま、企業、NPOなどに多数ご参加・ご協力いただきました。すべての人・団体に対しては感謝の言葉で一杯です。

事業そのものはこの3月末で終了しますが、この事業をきっかけとしてまかれた種が芽吹き、葉を広げ、いつの日にか美しい花を咲かせることになれば、事務局としてこれ以上の喜びはありません。

大学のまち京都の「知」を京都市の政策に活かすという取組は、少し形を変えますが、今後も続けてまいります。引き続きご注目とご協力をよろしく願いいたします。



公益財団法人
大学コンソーシアム京都
シンクタンク事業担当 水田、矢野

E-mail mirainokyoto@consortium.or.jp
電話 075-708-5803
URL [http://www.consortium.or.jp/
project/seisaku/think-tank](http://www.consortium.or.jp/project/seisaku/think-tank)

